

花北青雲 競り勝つ



花北青雲—大船渡東 延長10回表花北青雲2死二塁、斎藤遼の左前打で二走鎌田(6)が生還。3—2とする。捕手久保=八幡平

延長十回 大船渡東力尽く

第65回秋季東北地区高校野球県大会
 第2日は15日、花巻市の花巻球場などで1回戦の残り6試合を行い、花北青雲は延長十回の熱戦の末、大船渡東を3—2で下し2回戦に進出した。黒沢尻工は延長十回2—1で花巻農にサヨナラ勝ちし初戦を突破した。大船渡は最終回に不來方の反撃を許したが4—



第2日

3で勝利をつかんだ。久慈は好機に著実に得点を重ねて4—2で宮古を下した。専大北は11—1の6回コールドで伊保内に大勝。盛岡三も8—1で葛巻に七回コールド勝ちした。
 第3日の16日は花巻球場など3球場で2回戦8試合を行い、ベスト8が出そろう。

きのこのの勝敗

▽1回戦	盛岡三 8—1 葛巻 (七回コールド)
【花巻】	大船渡 4—3 不來方
久慈 4—2 宮古	【八幡平】
【森山】	黒沢尻 2—1 花巻農 (延長十回)
専大北 11—1 伊保内 (六回コールド)	花北青 3—2 大船渡 (延長十回)

ぎよつこの試合

▽2回戦	山田 1—1 関一 (9時)
【花巻】	盛岡大付—黒沢尻工 (11時30分)
宮古商—盛岡中央 (9時)	花北青雲—関学院 (14時)
久慈 工—福岡 (11時30分)	【八幡平】
久 慈—盛岡三 (14時)	水沢—水沢一 (10時)
【森山】	専大北上—大船渡 (12時30分)

八幡平球場

◇1回戦▽第2試合
 花北青雲 0010001000
 大船渡東 00010001000
 (延長十回) 0 1
 2 3



久保(大)
 花北青雲・斎藤遼中堅手 (延長十回に決勝打、夏に好機で見逃し三振をしてから積極的に打つことを心掛けていた。打てば二走の鎌田が生還してくれると信じていた。



女子マネが選手鼓舞
 ○：「かっ」とぼせー。球



で選手を鼓舞している。写真。部員全員ベンチ入り。攻撃を盛り上げようと長崎彩耶さん、佐々木望瑠さん、佐藤彩花さんが地区予選から声を張り上げている。夏の大会で覚えた応援曲は打順ごとに変え、太鼓のたたき方は見よう見まね。「練習はしていないができるようになった」と曲によって3人が打ち分ける。
 「打席で励みになる」と選手からも好評の応援。「連戦になると声もつか分らないけど勝ってほしい」と勝利の一打を呼び込む。

好走塁で決勝点 花北青雲

花北青雲が延長十回に大船渡東を振り切った。エースの力投に野手陣が奮起し、決勝点をつかんだ。
 延長十回2死、1番鎌田佳祐(2年)が右中間二塁打で出塁し好機をつくと、2番斎藤遼(2年)が左前打。打球が強く本塁突入は難しい場面だったが、鎌田は「ゴロだと三塁で止まったが、打球が上がった分には思ってた」と迷いなく突っ込んだ。捕手の動きを見て右に回り

込んで生還した好走塁だった。右腕晴山光主将(2年)がチームの大黒柱で「いつも晴山に助けられている。点を取って楽にしてやってくれた」と鎌田。その思いに込めるように、晴山は十回裏を三三振で締め試合を決めた。

夏の大会では久慈と延長十回五回引き分け再試合を行なった。3年生を中心に力を発揮し16強入り。新チームに変わっても結果を残そうと「夏の残像」を追い求め、自分たちのプレーを見失って練習試合では連敗が続いた。結果「野球を楽しむ」。結果

を気にせずプレーすることで徐々に力を発揮し、県大会初符をつかんだ。晴山主将は経験者として自分たちの力を出せるようになってきた」と実感する。
 2回戦は一関学院と対戦。鎌田は「当時中学生だったが2009年夏の勝利を覚えていた。先輩方のように挑戦者の気持ちでぶつかると力をみなぎらせた。」(小田野)